校生の映像

生活意識と親の悩み

◈ **約半数が生活安定志向型**

「将来、どんな生活がしたいか」についてみると、一番多いのが「平凡でもよいから暮らしに困らない生活」で、「気らくな生活」と合せると、55.7パーセントにもなる。

これは、現代っ子に生活安定志向型が多いということがいえます。

次に多いのが、「教養・趣味を生かす生活」であり、最も低率だったのは「社会奉仕型」0.7パーセントでした。

◈ **こづかいは3,000〜5,000円**

1ヵ月のこづかいの額は、3,000円〜5,000円が一番多く43.1パーセント。

また、こづかいの使いみちを調べてみると、ベスト3が飲食費・本・雑誌代・趣味の順。男女間で特に差がみられたのは、男子は、女子よりも趣味・娯楽に多く金をつかい、女子は、本・文具・装飾品にこづかいを使う傾向がうかがえる。

やはり親は教育上の悩み

子どもに関するアンケート調査

市青少年問題協議会は、今年の5月、市内の普通高校と商業高校の生徒を持つ親243人に対し、〝子どもに関する悩みとその相談〟についてのアンケート調査を実施しました。

その調査結果をみると、「子どもの養育について、深刻に悩んだことがあるか」の問に対しては、約半数の親が「ある」と答え、そのうち70パーセントが「教育上の悩み」を訴えている。

「悩みを誰に相談するか」については、「妻や夫または家族」が圧倒的に多い。

「悩みを妻や夫以外に相談する」のうち、「誰に相談するか」については、「学校の先生」が多いが、「専門家」を求める声も出ている。

補導センター土屋指導主事

市青少年補導センターの土屋指導主事は、「複雑化する社会の中で、子どもを持つ親の悩みは増えつつある。

相談する相手としては、今後、専門家を求める傾向が、ますます強まるのでは……」と話しています。

秋の生存者叙勲

昭和55年度秋の生存者叙勲が、11月3日の文化の日に発表され、市内では次の2人が受章されました。

勲五等瑞宝章

諸星利一さん（六十七歳）
緑町一丁目
元富士市消防団長

諸星さんは、昭和14年から41年間消防団員として、地域住民の生命・財産を守りつづけてきました。

その間、昭和44年から市消防団副団長、52年から55年まで市消防団々長を務めました。

勲六等単光旭日章

横瀬武人さん（七十二歳）
中央町二丁目
元静岡地方家庭裁判所富士支部庶務課長

横瀬さんは、昭和3年から32年間裁判所書記官として奉職されました。

その間、台湾法院、静岡裁判所富士・清水支部に勤務。昭和27年から同36年まで清水・富士支部の庶務課長を務めました。

小学校の部市長賞を受けた佐藤君のポスター

昭和55年度防火ポスター　市長賞に佐藤君　津田さん

防火ポスターコンクールの入賞者が、次のとおり決まりました。

応募点数は、小・中・高校あわせて248点。佐藤君と津田さんの作品は、それぞれ秋と春の火災予防運動のポスターとして使われます。

◇小学校の部

・市長賞　佐藤勝吾（岩松小）・議会議長賞　小塚晴美（須津小）・教育長賞　五十嵐徹（富士第2小）・消防長賞　露木礼子（今泉小）・防火協会長賞　村上裕子（鷹岡小）高嶌千香子（丘小）

◇中学校の部

・市長賞　津田登奈美（富士南中）
・議会議長賞　野上志津（吉原一中）
・教育長賞　遠藤道代（富士中）
・消防長賞　嶋裕子（吉原三中）
・防火協会長賞　井上理恵子（富士南中）